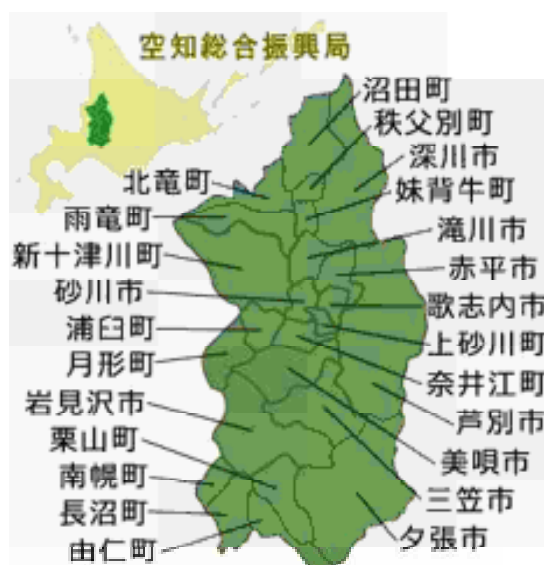


令和3年度

空知管内地域農業づくり懇談会資料

I	普及事業の概要	・・・	1ページ
II	空知農業改良普及センターの活動体制	・・・	3ページ
III	令和3年度 普及活動計画	・・・	4ページ
IV	過去の普及活動実績	・・・	13ページ
V	成果の上がった5事例の要約	・・・	14ページ
VI	成果の上がった5事例のビジュアル版	・・・	17ページ



令和4年3月2日

空知総合振興局
空知農業改良普及センター

I 普及事業の概要

1 北海道における普及事業 (別紙資料参照)

2 空知農業改良普及センターの活動

(1) 空知農業の現状と課題

- 1) 基幹作物である「米」の価格低迷による農業所得の減少
- 2) 農家戸数の減少と経営面積の拡大による労働力不足
- 3) 農業の担い手減少と人口減少に伴う集落機能の低下
- 4) 水田転作作物の連作障害
- 5) 家畜が少ないことによる有機物不足
- 6) 気象変動対応

(2) 第6期北海道農業農村振興推進計画に基づく空知農業改良普及センターの活動方針

1) 持続可能で生産性が高い農業・農村の確立(抜粋)

- ①生産基盤の強化
- ②安全・安心な食料の安定生産の確保
- ③農業経営の安定化
- ④環境と調和した農業生産に向けた取り組み支援
- ⑤様々な情報ツールを活用した農業者や消費者への情報発信

2) 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立(抜粋)

- ①空知ブランドを高める広域連携型産地(ゆめぴりか、新規需要米等)の育成支援
- ②実需に対応した新規作物の導入支援
- ③地域の特徴ある農産物ブランドづくりの支援
- ④高付加価値化に向けた地域資源や地域加工技術の活用支援
- ⑤地域ぐるみの6次産業化、直売事業による地域の雇用機会の創出支援

3) 多様な人材が活躍する農業・農村の確立(抜粋)

- ①新規就農者の確保、定着、育成に係る活動支援
- ②指導農業士・農業士との連携や活動支援、農業高校等との連携
- ③女性農業者の組織活動やネットワーク活動に対する支援
- ④担い手育成・確保に係る農業ゼミナール開催や青年グループ活動支援
- ⑤空知管内担い手の育成・確保を担う各協議会等との連携

4) 道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ①農業者と地域住民、関係機関等が参画した共同活動の支援(農業の多面的機能)
- ②グリーンツーリズムなど消費者と生産者を結ぶ取り組みへの支援
- ③地産地消の推進と地域住民との交流促進
- ④直売所店舗等を通じた消費者との交流促進
- ⑤農業・農村に対する理解促進のための情報発信

(3) 試験研究機関、地域関係機関との連携

- 1) 第6期北海道農業農村振興推進計画の実現に向けて、総合振興局産業振興部各課と連携した普及活動を推進する。
- 2) 地域農業技術支援会議、北海道次世代水田作コンソーシアム(経営体強化プロジェクト)と連携し、緊急かつ重点的な課題解決を図る。
- 3) 地域の農業振興に係る課題や農業者のニーズを反映した普及課題を設定し、解決方法合意形成と役割分担により地域関係機関や団体と連携して、普及活動を展開する

3 活動体制と活動方法

(1) 空知農業改良普及センターの活動体制 (Ⅱ空知農業改良普及センターの活動体制 参照)

地域係 : 特定の地域担当する

広域スタッフ : 特定の広域課題を担当するほか、地域係を支援する

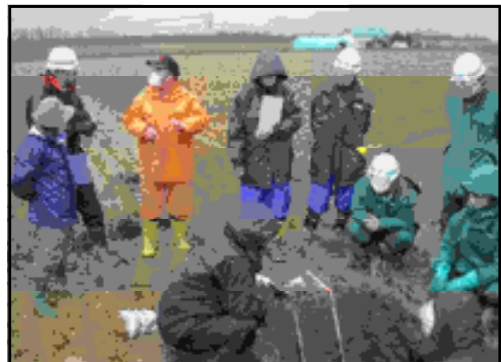
専門スタッフ : 担当する専門分野について広域的に活動するほか、地域係を支援する

(2) 重点活動と成果の波及

担当地域(係)ごとに重点地区を定め、重点地区の合意により解決すべき課題を設定し、チームで活動する。重点活動で得られた成果は、研修会などを通じて他の地域に波及する。

(3) 一般活動(計画活動): 地域における個別課題の解決

(4) 要請活動: 農業関係団体や個別経営体からの支援要請に対する対応



IV 業務分担

1 活動体制

西村所長	長尾次長	本所 地域班					
		区分	責任者	担当者	備考		
		第一係	橋本地域係長 上田主査	佐竹専主 関師普指 小玉普職	竹本専普 佐藤普指	石川普指 宗像普職	岩見沢市 三笠市
		第二係	二俣地域係長 佐々木主査	上原専普 服部普指	向川専普 谷村普指	高橋専普	美瑛市 月形町
	高田支所長	南東部支所 地域班					
		区分	責任者	担当者	備考		
	地域係	白井地域係長 伊藤主査	平田専主 寺田専普	林 専主 小林専普	増井専普 本間普職	夕張市 由仁町 栗山町	
	関崎支所長	南西部支所 地域班					
		区分	責任者	担当者	備考		
	地域係	竹井地域係長 高田主査	菅原専主 山越専普	西原専主 栗山普職	植松専普 市野普職	長沼町 南幌町	
	玉井支所長	中空知支所 地域班					
		区分	責任者	担当者	備考		
		第一係	佐久間地域係長 藤原主査	平門専主 竹原専職	山口専普 宇都宮普職	栗林普指	砂川市 歌志内市 奈井江町 上砂川町 浦臼町 新十津川町
	第二係	山口地域係長 岡元主査	佐藤専主 宮崎普職	平川専普 澤口普職	細川専普	芦別市 赤平市 滝川市	
	田川支所長	北空知支所 地域班					
		区分	責任者	担当者	備考		
		第一係	若宮地域係長 吉田主査	酒井専主 北川普職	結城専主 内野普指	鴨下専普	深川市
		第二係	大沼地域係長 重盛主査	志和専主 五十嵐専普	生駒専主 太田普指	竜滝専普	妹背牛町 秩父別町 沼田町
	第三係	須佐地域係長	池田専主	村井専普	長田専職	雨竜町 北竜町	
	吉岡主任普及指導員 (農業革新支援専門員)	広域班(本所)					
区分		責任者	備考				
担い手		八重樫主査					
情報・クリーン・有機		岡元主査					
高付加価値化		中島主査					
広域 専門		畑作	千石主査				
	園芸						
	畜産	寺田主査					
杉江主任普及指導員 (農業革新支援専門員)	広域班(北空知支所)						
	区分	責任者	備考				
	広域 専門	畑作	松浦主査				
		畜産	林 主査				
		果樹	桂川主査				
園芸		小森主査					

Ⅲ 課題別普及活動計画

1 地域課題一覧

○（重点的に取り組む地域重点）

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的推進事項 (現況→目標)	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
1	○輪作の推進と花き生産力の維持による持続可能な農業経営	①輪作の推進 ・原価分析による課題整理 原価分析実施農家戸数 (0戸→5戸) ・基幹作物の技術改善 土壌分析実施農家戸数 (1戸→10戸) ・輪作品目の導入拡大 直播水稻導入農家戸数 (1戸→2戸) ②花き生産力の維持 ・省力・軽労技術の導入 省力・軽労技術導入農家戸数 (1戸→2戸)	岩見沢市	越前・自協地区 (25戸) 花き栽培農家 (7戸)	橋本係長 上田主査 佐竹専主 石川専主 竹本専普 石川普指 凶師普指 佐藤普指 長尾次長	R3 ~R7
2	若手農業者の育成	①4Hクラブの活動支援 ・学習会の開催回数 (1回→5回)	岩見沢市	岩見沢市 4Hクラブ (7名)	佐藤普指 石川普指 凶師普指	R3
3	新規参入者に対する営農支援	①就農計画の実践支援 ・基幹品目の出荷量 計画比90%以上 (2戸→3戸)	岩見沢市 三笠市	岩見沢市・三笠市新規参入者 (3戸)	橋本係長 上田主査 石川普指	R3

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的推進事項 (現況→目標)	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
4	○複合経営の安定化と担い手を核とした地域農業の振興	①基幹作物の生産性向上 ・直播水稻基本技術の実践 基本技術実践農家戸数 (0戸→6戸) ・秋まき小麦の適正肥培管理の実践 適正肥培管理実践農家戸数 (0戸→9戸) ②担い手による地域農業の振興 ・地域農業を考える会の設立と振興方策の検討 検討会開催回数 (0回→2回)	美唄市	美唄市西美唄地域 水稻直播導入農家 (8戸) 秋まき小麦作付け農家 (16戸) 地域農業を考える会 (8戸)	二俣係長 佐々木主査 上原専普 向川専普 高橋専普 服部普指 谷村普指	R3 ~R7
5	美唄市における輪作体系の確立と普及	①新規作物の普及 ・直播てんさい導入戸数 (7戸→9戸)	美唄市	美唄市輪作プロジェクト研修会参加農家 (33戸)	二俣係長 高橋専普 服部普指	R3
6	月形町ミニトマト安定生産	①ミニトマトの生産性向上 ・株収量3kg以上達成農家戸数 (5戸→10戸)	月形町	キャロル10作付け者 (19戸)	佐々木主査 上原専普	R3 ~R4

課題 番号	課題名 (関連事業)	具体的推進事項 (現況→目標)	主たる対 象市町村	普及対象	担当者	活動 期間
7	優れた農業者の 活動推進	・組織活動の充実 (20名→25名)	夕張市 由仁町 栗山町	空知南東部地 区指導農業士 ・農業士会 (74名)	小林専普 白井係長	R3 ～R4
8	にんにくの安定 生産	・種子品質の向上 (1戸→5戸)	由仁町 栗山町	JAそらち南に んにく部会 (10戸)	本間普職 寺田専普	R3 ～R4
9	メロンブランド の強化	・出荷安定の取り組み (58%→60%)	夕張市	夕張メロン組 合員 (104戸)	増井専普 寺田専普	R3 ～R7
10	若手女性農業者 の育成 (北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業)	・若手女性農業者の活 動推進 (1回→3回)	由仁町	WEAVE (12名)	増井専普 白井係長	R3 ～R7
11	青年農業者の育 成	・プロジェクト活動の推 進 (0回→1回)	由仁町	由仁町4Hク ラブ (8名)	本間普職 寺田専普	R3 ～R7
12	○新たな担い手 による経営の確 立と地域活性化	①新規参入者の定着 (0戸→3戸) ②新規法人営農体制の 構築 ・小麦の安定生産技 術の実践 (0→2) ・水稻省力化栽培の 導入 (0ha→10ha) ③有害鳥獣対策への意 識向上と実践 (0回→1回)	栗山町	栗山町日の出 地域 ①新規参入者 (4戸) ②新規設立法 人 (1法人) ③日の出地域 (13戸1法人)	白井係長 伊藤主査 平田専主 林専主 増井専普 寺田専普 小林専普 本間普職 高田支所長	R3 ～R7
13	青年農業者の育 成	・自主研修会及び勉強 会参加率の向上 (41%→65%)	栗山町	栗山町4Hク ラブ若手クラ ブ員 (9名)	平田専主 林専主	R3 ～R7

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的推進事項 (現況→目標)	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
14	水田土壌の持続的管理技術の推進	① 土壌・可給態ケイ酸含量の維持管理 ・土壌分析圃場・点数 (39点→50点)	南幌町	南幌町米麦改良協会 水稲作付生産者 (138戸)	山越専主 高田主査	R3
15	秋まき小麦の安定確収栽培の確立	①安定生産に向けた阻害要因の解消 ・低pH(5.0未満)ほ壤割合 (17%→10%)	南幌町	秋まき小麦生産者 (123戸)	植松専普 菅原専主	R3 ~R4
16	○土地利用型作物導入による生産基盤の向上	①長沼型輪作体系による生産性の向上 ・大豆品質収量の向上 肥培管理技術の改善 戸数 (0戸→5戸) ・基盤整備直後の生産性向上 施肥改善実施戸数 (0戸→2戸) ・新規作物の導入定着 導入面積 (12.4ha→14ha)	長沼町	25区 大豆作付け農家 (5戸) 基盤整備直後 水稲作付け農家 (2戸) 25区生産者 (9戸)	竹井係長 高田主査 菅原専主 西原専主 植松専普 山越専普 栗山普職 市野普職 関崎支所長	R3 ~R7
17	振興作物の生産拡大	①ブロッコリーの栽培支援 ・ブロッコリー出荷玉数 (6,176千玉→6,300千玉)	長沼町	ブロッコリー生産部会 (117戸)	栗山普職 竹井係長	R3

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的推進事項 (現況→目標)	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
18	高品位米生産技術の向上	①ゆめぴりか高品位米出荷率の高位安定化 ・特別栽培ゆめぴりかの3年平均基準品米(タンパク7.4%以下)出荷率(66%→80%)	砂川市 奈井江町	JA新すながわ「特別栽培米生産組合」(68戸)	藤原主査 佐久間係長 竹原専職	R3 ~R5
19	トマト栽培の省力化技術	①各経営形態に合わせた栽培管理の省力化技術の提案 ・ブロー利用による簡易交配技術の導入農家数 (1戸→10戸)	砂川市 奈井江町	JA新すながわトマト生産者(35戸)	山口専普 平門専主	R3 ~R5
20	○水稻を基幹とした持続可能な経営の確立	①土地利用型作物の安定生産 ・栽培改善目標設定農家戸数 (0戸→6戸) ・ドローンを活用した生育診断による適正管理 (0ha→1ha) ②高収益作物の推進 ・基本技術実施戸数 (0戸→2戸)	新十津川町	総進4・5地域(13戸) 水稻作付農家(11戸) 小麦・大豆作付農家(2戸) ミニトマト作付農家(5戸)	佐久間係長 藤原主査 平門専主 山口専普 栗林普指 竹原専職 宇都宮普職 玉井支所長	H3 ~R7
21	酒米生産技術の向上	①低タンパク酒米生産技術の確立 ・改善方策策定戸数 (3戸→4戸)	新十津川町	ピンネ酒米生産組合(18戸)	佐久間係長 藤原主査 栗林普指	H28 ~R3
22	GAPへの取組推進	①法人経営でのGAP認証取得支援 ・JGAP認証取得戸数 (0戸→1戸)	芦別市	芦別市農業法人(1戸)	岡元主査 佐藤専主 平川専普	R3 ~

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的推進事項 (現況→目標)	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
23	○ 安定生産と効率化による地域農業の永続化	①農産物の生産振興 ・高品質米の安定生産 育苗日数短縮試行農家戸数 (0戸→1戸) 技術項目実施戸数 (0戸→2戸) ・マルチコブター利用による地域受委託防除の実施 (1戸→3戸) ・施設園芸ICT技術の導入 (0戸→1戸)	滝川市 赤平市	江部乙町2-2地域 (5経営体) 施設園芸農家 (2経営体)	山口係長 岡元主査 佐藤専主 平川専普 細川専普 宮崎普職 澤口普職	R3 ~R7

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的推進事項 (現況→目標)	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間	頁
24	○水稲を基幹とした持続可能な複合経営の確立	①地域の農産物生産性及び収益性の向上 ・水稲の育苗管理、雑草対策実施戸数 (4戸→8戸) ②地域を担う農業者のスキルアップ ・研修課題の設定・実践農家戸数 (0戸→5戸)	深川市	納内東豊地区 (15戸) 水稲作付農家 (15戸) 地域農業後継者 (9戸)	若宮係長 吉田主査 酒井専主 結城専主 嶋下専普 北川専普 内野普指 田川支所長	R3 ~R7	133
25	スマート農業技術の地域定着に向けた支援	①技術導入に係る情報共有・課題整理 (0戸→10戸)		JAきたそらち スマート農業 技術研究会深 川市農業者 (16戸)	吉田主査 酒井専主 内野普指	R3 ~R4	133
26	○担い手を核とした持続可能な経営体の育成	①担い手のスキルアップ ・土壌診断の実施 施肥設計実施農家戸数 (0戸→5戸) ・水稲育苗管理の見直しチェックシートによる技術検証農家戸数 (0戸→5戸) ②効率的な農作業体系の確立 ・チェックシートを活用した作業の点検 農薬庫の点検実施戸数 (0戸→10戸)	沼田町	共成地域 (16戸) 若手農業者 (7戸) 水稲作付農家 (16戸) 水稲作付農家 (16戸)	大沼係長 重盛主査 志和専主 生駒専主 竜滝専普 五十嵐専普 太田普指 田川支所長	R3 ~R7	149
27	加工用トマトの効率的な防除	①ヨトウガの観察防除 ・町収穫量 (300t→310t)	沼田町	加工用トマト 生産組合 (22戸)	大沼係長 志和専主 太田普指	R3 ~R7	149

課題 番号	課題名 (関連事業)	具体的推進事項 (現況→目標)	主たる対 象市町村	普及対象	担当者	活動 期間	頁
28	○新たな水田複 合経営の確立	①農作物の安定生産と 省力化 ・省力化技術の定着 高密度播種実施農家 戸数 (1戸→3戸) ・基本的栽培技術の励 行 基本技術の改善実施 戸数 (1戸→2戸) ②担い手の経営管理能 力向上 ・分析ツールを活用し た生産管理 経営分析ツールの活 用の活用農家戸数 (0戸→5戸)	雨竜町	中島地域 (10戸)	須佐係長 池田専主 村井専普 長田専職 松浦主査 田川支所長	R3 ~R7	161
29	大豆の安定生産	①大豆作付けの定着 ・新規作付け農家戸数 (0戸→2戸)	雨竜町	雨竜町大豆麦 作付け農家 (29戸)	村井専普 松浦主査	R3~ R5	161
30	水稲の安定生産	①大規模経営における 中苗マットを活用し た省力化栽培技術の 導入と検討 ・高密度播種栽培暦の 作成 (0暦→1暦)	北竜町	農事組合法人 みずほファー マーズ (4戸1法人)	須佐係長 長田専職	R3~ R5	161

2 広域推進事項一覧

業務区分	推進事項名	主たる対象市町村	普及対象	担当者
担い手	①多様な人材が活躍する農業・農村の確立	空知管内	空知管内4HC連絡協議会 北海道農業士空知地区連絡会議 空知はっらっ女性ネットワーク 農福連携志向農業者 農業組織経営体	八重樫主査 吉岡主普 上田主査 平田専主 植松専普 佐藤専主 須佐係長
情報・クリーン・有機	①普及情報システム化の推進	空知管内	普及指導員	岡元主査 吉岡主普 上原専普 伊藤主査 山越専普 平川普指 吉田主査
	②有機農業・クリーン農業の推進		空知有機農業ネットワーク会員および有機農業者・有機農業志向者 空知管内農業者および生産団体・農業高校関係機関	岡元主査 吉岡主普 佐々木主査 寺田専普 山越専普 山越専普 山口専普 大沼係長
高付加価値化	①高付加価値化の推進	空知管内	ステップアップ志向農家・グループ等(13グループ)・地域等	中島主査 杉江主普 佐竹専主 林専主 植松専普 平門専普 結城専主

過去の普及活動実績(ビジュアル版)一覧

●令和元年度

NO	本支所	係・広域	対象地区	タイトル
1	本所	地域第1係	岩見沢市北村豊正地区(33戸)	空知型輪作の確立を目指す-4年輪3作から4年3作の実践に向けて-
2	本所	地域第1係	岩見沢市・三笠市 JAいわみざわたまねぎ部会(170戸)	たまねぎの安定生産
3	本所	地域第2係	美唄市中村地域(19戸)	担い手を中心とした地域農業の振興
4	南東部支所	地域係	由仁町若手女性グループWEAVE	地域のために、子供達のために
5	南西部支所	地域係	南幌町4Hクラブ(14名)	南幌町を支える担い手の育成
6	中空知支所	地域第1係	晩生内地区若手農業者	経営移譲に向けた若手農業者の資質向上
7	中空知支所	地域第2係	芦別町きらきらぼし生産組合GAP部会(4戸)	GAPによる効率的な農場管理
8	北空知支所	地域第1係	深川市音江西営農組合(40戸)	情勢に即した持続可能な農業の推進
9	北空知支所	地域第2係	妹背牛町北農事組合10区(19戸4法人)	大規模化に対応する稲畑複合経営の確立
10	広域	本所 畑作	岩見沢市・美唄市・三笠市・月形町	地域で取り組む土育
11	広域	本所 畜産	岩見沢飼料生産組合、岩見沢市酪農家	岩見沢飼料生産組合への支援
12	広域	北部支所 果樹	JA北空知ぶどう生産出荷組合(平成元年設立)	創めることを忘れなければぶどうも人も生き生き輝く
13	広域	北部支所 花き	北育ち元気村花き生産組合 ダリア生産者13戸	ワニを防ぐ、ダリアの安定生産

●令和2年度

NO	本支所	係・広域	対象地区	タイトル
1	本所	地域第1係	岩見沢市北村豊正地区(31戸)	儲かり続ける「空知型輪作」の実践
2	本所	地域第1係	岩見沢市・三笠市 JAいわみざわたまねぎ部会(170戸)	たまねぎの安定生産
3	本所	地域第2係	美唄市中村地域(19戸)	担い手を中心とした地域農業の振興
4	南東部支所	地域係	由仁町岩内地区(19戸)	水稲主体経営における持続可能な地域営農の推進
5	南西部支所	地域係	長沼町29区26戸	水稲省力化技術推進の取り組み
6	南西部支所	地域係	長沼町29区26戸	担い手の資質向上
6	中空知支所	地域第1係	晩生内地区若手農業者	経営移譲に向けた若手農業者の資質向上
7	中空知支所	地域第2係	芦別町きらきらぼし生産組合GAP部会(4戸)	GAPによる効率的な農場管理
8	北空知支所	地域第1係	深川市音江西営農組合(40戸)	情勢に即した持続可能な農業の推進
9	北空知支所	地域第2係	妹背牛町北農事組合10区(19戸4法人)	大規模化に対応する稲畑複合経営の確立
10	北空知支所	地域第3係	雨竜町中島地区(10区)	新たな複合経営の確立
11	広域	広域 情報・クリーン・有機	中空知支所(地域第二係)との連携	GAP認証取得団体育成とGAP支援手法の確立
12	広域	広域 高付加価値化	高付加価値化実践農家・グループ・地域	岩見沢飼料生産組合への支援
13	広域	北部支所 畜産	中空知地区畜産農家及びJA	畜産クラスター事業への取り組みに向けた支援
14	広域	北部支所 果樹	中・北空知醸造用ぶどう生産者	おいしいワインはぶどうから

● 17ページからの ビジュアル版 要約表

NO 1

タイトル : 「担い手を中心とした地域農業の振興」

普及センター名 : 空知農業改良普及センター 本所

- 美唄市中村地域は、水稻を中心に秋まき小麦、大豆などが作付けされていますが、平成 28 年当時は、米価の低迷によって農家の所得が大きく下がっていました。
- 美唄のソウルフード「とりめし」を製造販売する「なかむらえぷろん倶楽部」が活動している地域です。平成 28 年当時は、「とりめし」の販売が落ち込んでおり、倶楽部の活気も無くなってきていました。地域の皆さんは、倶楽部が活気を取り戻し、昔のように活発な活動をする、ことを望んでいました（平成 10 年設立）。
- 秋まき小麦の収量向上と新規作物の作付けによって、所得の向上を目指しました。
- 水稻の春作業は、秋まき小麦など他作物の作業と競合します。そこで、水稻の省力化技術の導入を図りました。
- 「なかむらえぷろん倶楽部」の法人化と「とりめし」の PR 活動を支援しました。
- 秋まき小麦の追肥の時期や量、種まきの時期が改善され、収量が向上しました。
- 直播てんさい、スイートコーンなど、収益の高い作物の作付けが進みました。
- 水稻疎植栽培、置床鎮圧育苗などが普及し、水稻の春作業が軽減されました。
- 「なかむらえぷろん倶楽部」は合同会社となりました。農村女性グループとしては道内初です。また、HACCP への取り組みや販売店マップの作成など、活発な活動をするようになりました。その結果、美唄市、北海道、国の各種事業で表彰されています。

NO 2

タイトル : 「^{ゆつくり}由栗いも」で地域ブランドの確立！」

普及センター名 : 空知南東部支所

- 由仁町 4 H クラブ・栗山町 4 H クラブの共同プロジェクト活動において、美味しいさつまいもが収穫できたことをきっかけに、令和元年から 4 H クラブの活動を離れ、若手農業者が集まり、さつまいも栽培と販売活動に取り組んでいます。
- 地域イベント活動も積極的に行い、消費者に人気の高かった品種「紅あずま」を地域ブランド名「由栗いも」と命名し、PR を行っています。
- 令和 3 年 3 月に「そらち南さつまいもクラブ」（以下「クラブ」）を正式に設立し、本格的に生産・販売活動に取り組んでいます。クラブの活動として販売班と栽培班を置き、販売班は販促活動の他に、地元の子供達を対象に農作業体験も実施し、地域からも喜ばれています。栽培班では収量や品質の向上を目指し栽培試験や新規クラブ員の栽培支援を行っています。
- また、秋にはクラブ役員 3 名で販売会社「ベジタボ」も立ち上げ、クラブで生産したさつまいもの一括販売を行い、焼き芋店、菓子店、仲卸など多くの販売先と取引を行っています。
- こうしたクラブの活動は「第 1 回北大マルシェアワード最優秀賞」を受賞するなど地域を越えて評価されています。
- 普及センターではさつまいもの栽培だけでなく、クラブ運営への助言をしながら、由仁町と栗山町の青年農業者が更に飛躍するよう支援をしています。

●ビジュアル版 要約表

NO 3

タイトル : 「～輪作で築く持続可能な長沼農業～」

普及センター名 : 空知南西部支所

- 長沼町の転作率は81%で、大豆と立毛中に秋まき小麦をは種する交互作が大半を占めるが、近年は大豆の収量品質の低下が課題となっている。この縮図となっている長沼町25区(9戸)は同様の課題を抱えつつ、水田の基盤整備が進められている。
- また2戸が新たな輪作作物の可能性のある子実用とうもろこしを先進的に栽培しており対象とした。
- 活動の柱は①輪作による畑作物の収量品質向上、②基盤整備後の水稲の安定化、③新規作物の導入と作付け拡大を中心に普及活動を行う。
- 初年目は①大豆の低収要因の解明、大豆施肥の適正化、マメシンクイガの適期防除②基盤整備後の水稲施肥改善③子実用とうもろこしの栽培実態調査を行った。
- その結果①大豆は3戸で目標を上回る収量だった。②水稲は基盤板整備後1年目の施肥法の理解は進んだ。

NO 4

タイトル : 「アグリアドバイザーから地域への新たな提案」

普及センター名 : 中空知支所

1 活動の背景

- 農家戸数の減少に伴う担い手の経営規模拡大や米価下落などの対策として、課題解決に向けた改善対策の実践を担う農業者や組織による取り組みが必要でした。
- 中空知の指導農業士等による『中空知アグリアドバイザー(以下中アグリ)』は、担い手以外の活動が乏しいことや活躍の場が少ない状況でした。

2 活動の経緯

- 中アグリ役員会で「地域農業の課題解決に向けたテーマを設定して取り組もう」との意見をきっかけに、取組内容を普及センターが提案し活動を始めました。
- テーマは、水稲育苗を軽労化する密播中苗技術や新たな輪作物目の直播ビート栽培に取り組みました。
- 取組の経過や結果を現地研修会等で会員や関係機関に周知しました。

3 活動の成果

- 密播中苗、直播ビート栽培ともに地域への波及が見られています。
- 「中アグリ」が地域の課題解決に取り組み、情報発信する組織に発展しました。

●ビジュアル版 要約表

NO 5

タイトル : 「担い手を核とした持続可能な経営体の育成」

普及センター名 : 北空知支所

- 沼田町共成地区は、水稻を主体に畑作物（小麦、大豆、そば）や加工用トマト等との複合経営が営まれています。
- 近年、経営移譲により若い経営主が多くなり、地域からは担い手のスキルアップが求められていました。
- 共成地区の土壌は、排水不良の粘土質が多いため、今年度は土づくりをテーマに若手農業者と土壌断面調査や土壌診断結果を下にした施肥設計を行いました。
- また、意見交換会を3回行い、地域の課題などについて話し合いました。
- 水稻育苗管理は、チェックシートを活用し管理のポイントを伝え、改善につながりました。また、女性農業者を中心に研修会を開催し、他の農家の育苗管理を見ることで違いなどに気づき、適正な管理への関心が高まりました。
- 今後も担い手を中心に、スキルアップ研修を実施して行く予定です。

担い手を中心とした地域農業の振興

～ 未来へつなぐ中村の開拓スピリット ～

NO.1

対象：美唄市中村地域（19戸）

1 活動の背景

地域の現状

- 水稲を主体に小麦・大豆の複合経営 : 米価低迷 (H27年当時) の影響で、粗収入減少。
- 郷土料理のとりめしを製造・販売する : 「なかむらえぷろん倶楽部」(以下、えぷろん「なかむらえぷろん倶楽部」が活動 倶楽部) の活動支援を求める声。

課題

- ☆基幹作物の収益性向上
- ☆「えぷろん倶楽部」の活動活性化

2 活動の経過

(1) 基幹作物の収益性向上

実証ほ設置
定点調査
現地研修会
先進地視察
個別巡回
FAX、SNS
情報提供

- ①水稲の省力化技術の導入 : 疎植栽培、無代かき栽培、直播栽培
置床鎮圧育苗の普及。
※春作業の省力化が可能な技術。
- ②秋まき小麦の収量向上 : 追肥技術の改善(時期、追肥量)。
は種技術の改善(時期、は種量)。
- ③新規作物の導入 : スイートコーン、加エトマト、直播てんさい、
なたねの導入・定着。
※省力的な露地野菜、小麦や大豆と輪作可能な作物。

(2) 「えぷろん倶楽部」の活動活性化

専門家と連携
・保健所
・食加研
・地域おこし
協力隊員
研修会
意見交換会

- ①HACCPに基づいた加工工程管理表作成 : HACCPに基づき「とりめし」
製造工程の危害と対策を整理。
- ②「中村のとりめし」PR活動 : 「とりめし」販売店マップの作成。
地域おこし協力隊員に作成依頼。
- ③地域女性農業者との交流活動 : 個別巡回による意向把握と野菜現地
研修会、意見交換会の開催。
- ④「えぷろん倶楽部」の法人化 : 法人化のメリットを整理。
税理士を招いて勉強会。

3 成果の具体的内容

(1) 基幹作物の収益性向上

- ①水稲の省力化技術(4技術)が普及
 - ・省力化技術を延べ21戸が導入した(表1)。
 - ・自動操舵田植機、ドローン等の新たな技術の導入
や水田自動給水装置の試験が始まった。
 - ・疎植栽培は、他地域へ波及しつつある。

表1 水稲省力化技術の導入戸数

	R2年までの導入戸数	
	H27年	R1年
疎植栽培	0	→ 5
無代かき栽培	1	→ 3
直播栽培	0	→ 5
置床鎮圧育苗	6	→ 8
延べ導入戸数	7	→ 21

②秋まき小麦の技術改善で収量向上

- ・追肥技術の改善を10戸が実施した。また、改善農家の収量は、未改善農家及びJA平均より高まった(表2)。
- ・は種技術の改善を11戸が実践した。

表2 秋まき小麦の追肥・は種技術の改善戸数(12戸中)

技術	時期	実践農家数	R1年産10a収量(kg)		
			改善農家	未改善	JA平均
追肥	起生期	12戸			
	幼穂形成期	10戸	641	478	509
	止葉期	10戸			
は種	-	11戸	-	-	-

③新規作物(4作物)の導入が進む

- ・新規作物を延べ25戸が導入した(表3)。
- ・露地移植スイートコーンは不織布やマルチ被覆が普及し、JA平均を上回る収量となった。
- ・新規作物は、JAとの連携により他地域へ波及し、栽培戸数が増えて定着しつつある。

表3 新規作物の導入戸数

新規作物	R2年までの導入戸数	
	H27年	R2年
なたね	3	→ 11
直播てんさい	0	→ 1
スイートコーン	0	→ 7
加工用トマト	0	→ 6
延べ導入戸数	3	→ 25

(2)「えぷろん倶楽部」の活動活性化

①HACCPに基づく加工工程管理表を作成

- ・「とりめし弁当」「炊き込みセット」のHACCPに基づく加工工程管理表を作成できた。
- ・HACCPへの取り組みにより、メンバーの衛生管理への意識がより高まった。

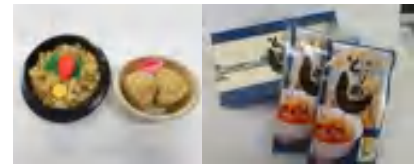


写真1 とりめし弁当、炊き込みセット

②販売店マップで「とりめし」をPR

- ・「中村のとりめし」販売店マップを作成できた(写真2)。
- ・マップの新聞への掲載、販売店、美唄市内施設への設置する等、「とりめし」のPRが行えた。
- ・マップの設置は、販売店から好評であった。また、新聞を見ての問い合わせがある等の反響があった。



写真2 販売店マップ

③女性農業者との交流活動始まる

- ・「とりめし」のPR方法等について意見交換(写真3)や野菜現地研修会を開催でき、女性農業者との交流が図られた。
- ・えぷろん倶楽部への関心が高まり、「子育てから手が離れたら倶楽部の活動に参加したい」との声があった。



写真3 意見交換会

④「えぷろん倶楽部」が法人化される

- ・平成28年12月、「合同会社なかむらえぷろん倶楽部」が設立された。
- ・配達中や食品事故があった場合の責任の所在と対応が明確となった。
- ・パート従業員と雇用契約を結ぶことで、地域の雇用の場として位置づけられた。

4 今後の課題と対応

5ヶ年の活動によって一定の成果が上がり、最終年度の到達目標も達成したので(表4)、本課題は、本年度をもって終了する。

表4 最終年度の到達目標
(1戸当り農業粗収入)

目標	R2年	到達度
1500万円	1771万円	118%

「^{ゆっくり}由栗いも」で地域ブランド確立！
 ～ 躍進するそらち南の若者たち ～

NO.2

対象：そらち南さつまいもクラブ 17名

1 活動の背景

- 由仁町、栗山町の4Hクラブで、何か新しい作物を作ろう・・・共同プロジェクト開始
 - ・栽培してみたら、意外と良いさつまいもが獲れた。収量もまずまずだった。
 - ・キュアリング後、家族に食べてもらおうと、評判は上々。これなら続けられるかも。
 - ・翌年（令和元年）より4Hクラブ活動から離れ、新たに組織を立ち上げ栽培を継続している。

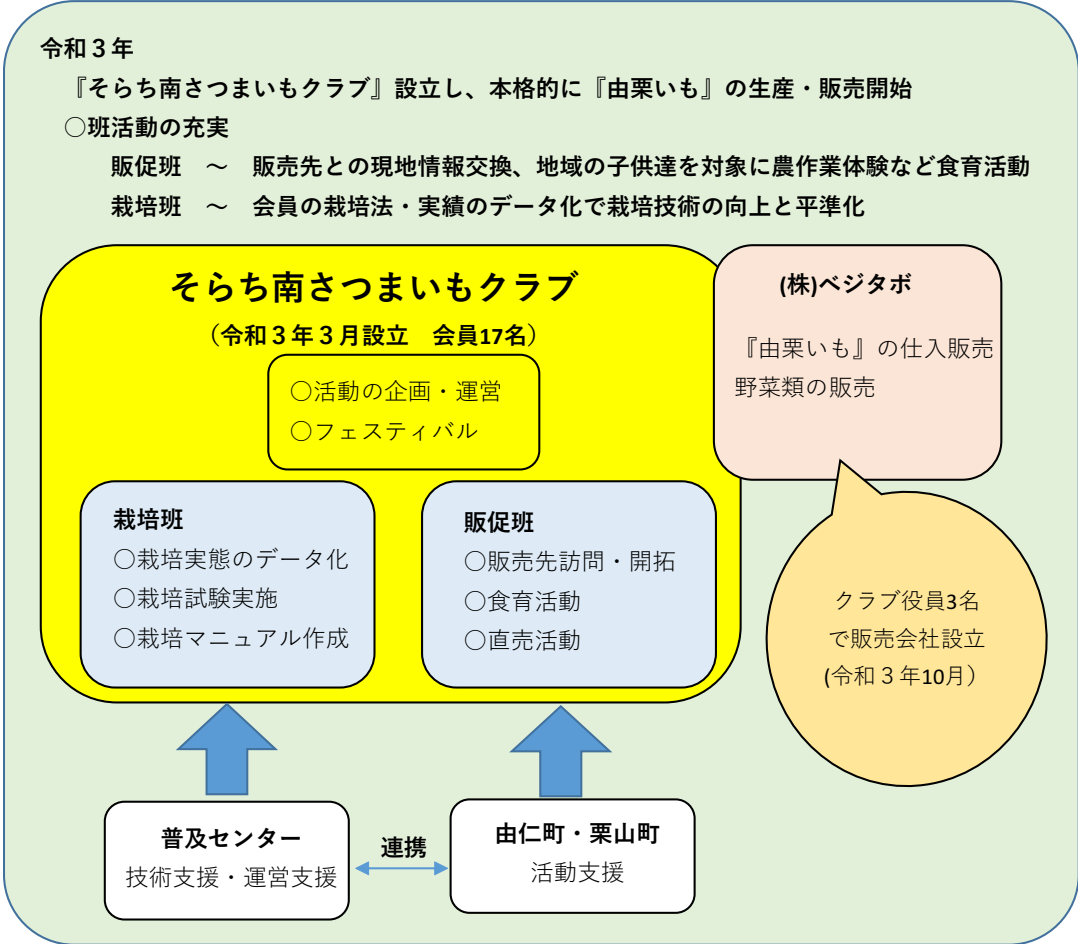
2 活動の経過

令和元年

- さつまいもフェスティバルの開催
 若手農業者の新しい取り組みを町内外にPR
 焼き芋・蒸し芋の試食と「好きな芋」投票を実施
- ブランド芋を作る！
 両町での栽培に適し、美味しくて消費者に選ばれた品種をブランド化
 「紅あずま」と「シルクスweet」を選定

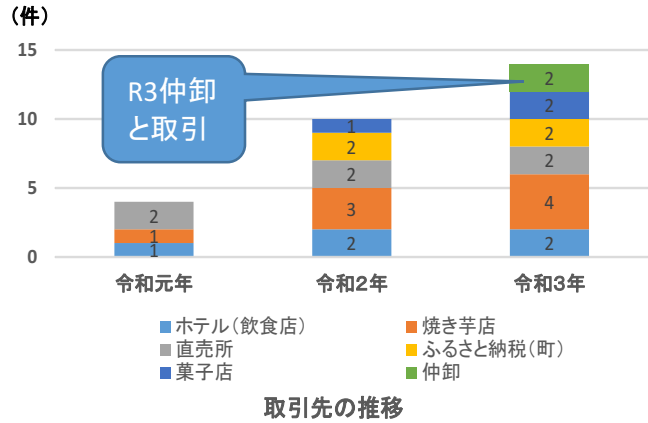
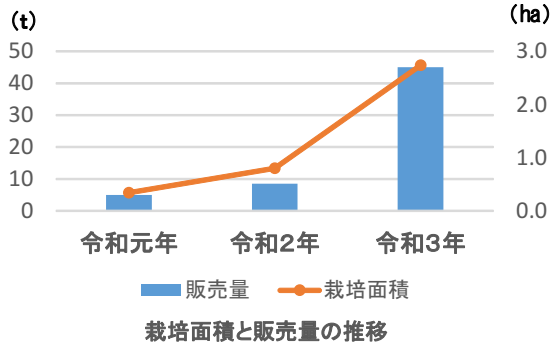
令和2年

- さつまいもフェスティバルの開催
 2品種の品種名を伏せて「どっちの芋が好き」投票を実施
- ブランド芋を作る！
 由仁町と栗山町で作ったさつまいも
 『由栗いも』と命名
 投票結果を受けて「紅あずま」をブランド芋に



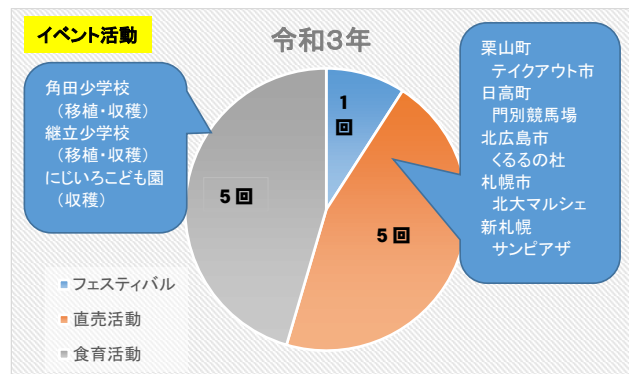
3 成果の具体的内容

● クラブ員の本気が伝わる実績



● 若者たちの夢と活動が評価されたマルシェアワード

由仁町、栗山町の若手農業者が新しい取り組みを地域にPRした「さつまいもフェスティバル」



町をまたいだ若手農業者の連携や、収穫体験を通じた食育など、地域を巻き込んだ活動が評価され「第1回北大マルシェアワード最優秀賞」を受賞した。(R3年11月)



4 今後の課題と対応

- ① 栽培管理技術レベルの向上と平準化。
- ② ほ場(土質、排水性等)に合わせた、施肥や栽培管理技術の確立。
- ③ そらち南さつまいも栽培マニュアルの完成。

NO.3

～輪作で築く持続可能な長沼農業～
 長沼型輪作体系による生産性の向上に向けて
 対象：長沼町 25区 (9戸) (普及活動重点対象地域)

1 活動の背景

- (1) 長沼町25区は、水稻・小麦・大豆の複合経営が中心で、経営主の平均年齢は45歳と若く、営農改善意欲の高い地域である。
- (2) 畑作物の輪作体系は大豆と秋まき小麦の交互作が多く、近年大豆の収量・品質低下により大豆の作付け面積も減少傾向である。一方で子実用とうもろこしを取り入れた輪作体系を実施し畑作物の収量維持を図っている事例もある。
- (3) 田畑の多くは強粘質土壌のため、透排水性が悪く、現在基盤整備が進められているが、基盤整備後の水稻収量が安定しないなどの問題を抱えている。
- (4) 対象農家との意見交換でも地域の課題として「大豆の品質・収量向上」「基盤整備後の水稻の安定生産」をあげる声が多く、この2課題と小麦・大豆の交互作解消に向けた新たな輪作作物(子実用とうもろこし)の栽培実態調査に取り組むことにした。

2 取り組んだ内容

(1) 長沼型輪作体系による生産性の向上

ア 大豆品質収量の向上 (対象：大豆生産者5戸)

輪作作物の柱である大豆の品質・収量向上に向けて「生育状況に応じた追肥」「マメシクイ」の適期防除を中心に肥培管理技術の改善に取り組み、合わせて栽培実態からここの課題を整理した。(懇談会1回、情報提供5回、現地研修会1回・ほ場の生育調査5回・マメシクイの発生活長調査16回)

イ 基盤整備直後の生産性向上 (対象、水稻生産者2戸)

還元田に対する窒素施肥対応を参考に、生産者と基肥量を検討し、幼穂形成期の生育調査と土壌のアンモニア態窒素量を元に、追肥の可否について相談し決定した。(懇談会2回、戸別巡回17回、戸別懇談4回)



写真1 大豆現地講習会(R3.7.5)

3 成果の具体的内容

ア 大豆品質収量の向上

(ア) 生育に合わせた適正追肥で収量が向上

大豆の追肥についての講習会は、非常に関心が高く、本年大豆を作付けしていない生産者も含めて、対象地区の全員(9戸)が参加した。昨年までの生育状況を聞き取り、現在の根粒菌数と生育状態から追肥量を決定した(表1)。

表1 追肥の判断技術の実施状況と生育調査結果

農家区分	B	E	F	G	I	
品種	タマビリカ	ユキホマレ	トヨムスメ	トヨムスメ	ユキホマレ	
は種日	5月27日	5月14日	5月27日	6月2日	6月11日	
追肥判断技術 7月9日調査	根粒の着生数	38.8	70.1	22.0	22.0	20.0
	生育量の観察(茎長cm)	13.6	26.7	18.9	16.3	7.0
	追肥量(窒素kg/10a)	6.3	0	2.1	1.0	4.2
	肥培管理技術の改善	○	○	○	○	○
生育調査結果 9月16日調査	茎長(cm)	111.2	55.6	59.1	59.9	30.4
	葉数(枚)	16.9	8.1	8.4	8.6	8.1
	m ² 当たり着莢数(莢/m ²)	672	562	633	586	183
	1英内粒数(粒)	2.43	1.89	1.96	1.96	1.92
成熟期	10月15日	9月20日	9月28日	10月1日	9月25日	

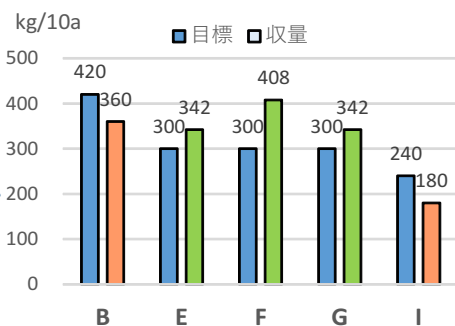


図1 収量と目標収量

(収量は坪刈りによる)

(イ) マメシクイガの適期防除で被害粒率軽減

マメシクイガの発生は早かった(図1)が、フェロモントラップを設置し、誘殺数と莢長(表2)をもとに、情報提供により適期防除が行われ、被害は少なかった。



図2 マメシクイガのフェロモントラップ誘殺数

表2 マメシクイガの防除時期と被害率

	B	E	F	G	I
莢長 2 ~ 3 cm到達日	8/11	7/28	8/2	8/6	8/6
1回目 防除月日	8/8	7/29	8/3	8/3	8/3
2回目 防除月日	8/18	8/8	8/13	8/13	8/16
被害粒率 (%)	0.00	0.04	0.00	0.22	0.44

その結果、収量(図1)が目標値を超え生産者が3戸(E, F, G氏)となった。目標を下回った生産者も低収となった要因が明確になり次年度の改善が期待できる。

イ 基盤整備直後の生産性向上(水稻)

基肥は、D氏は「復元田施肥対応」に準じ、7割に減肥した(図3)。

B氏は、下層土が砂のため総窒素施用量は変えず全層施肥を慣行の1/2にした(図4)。

幼穂形成期の追肥要否は生育量と葉色、アンモニア態窒素量を考慮し、両氏とも「必要ない」と判断した(表3)。この試みについて農家からは「実際に数値で確認することができ、どうしたらよいか考えることができた」との声が聞けた。

D氏は目標収量の97%となり「もう少し穫りたかったが、倒伏もなく品質は問題なかった。」とのことであった。

B氏は慣行栽培の107%の収量となったが、青未熟粒混入のため等級が2等となりタンパク含有率も高くなったため「基盤整備後1年目としては少し肥料が多かった」とのことであった(図5)。

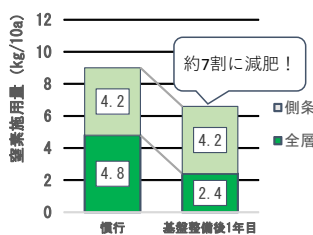


図3 D氏改善策

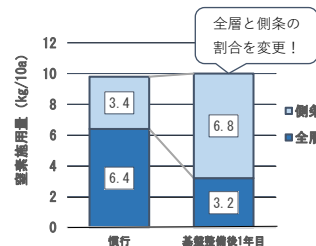


図4 B氏改善策

表3 幼穂形成期の生育と土壌溶出窒素量

項目	調査日	D氏	B氏
		基盤整備後	基盤整備後
莖数(本/m ²)	6月30日	495	433
葉色(SPAD)	6月30日	41.3	38.5
土壌アンモニア態窒素(NH ₄ -N mg/100g乾土)	6月28日	3.4	1.7
追肥の判断		しない	しない

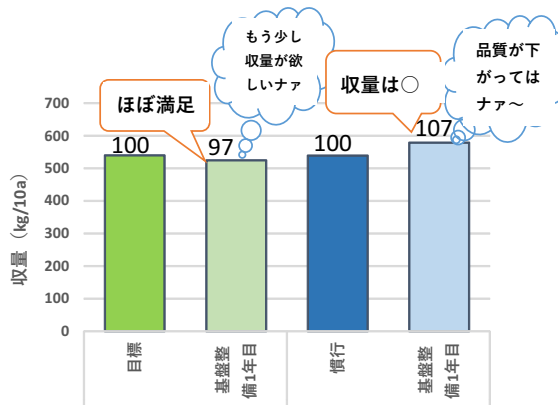


図5 収量(目標・慣行対比)

4 今後の課題と対応

ア 大豆品質収量の向上

令和3年は理化学性について、低収要因を検討したが、判然としなかった。今年度判明した低収要因は種遅れと水田隣接ほ場の湿害であった。次年度は物理性を中心に低収要因の解明を継続して行う。

イ 基盤整備直後の生産性向上

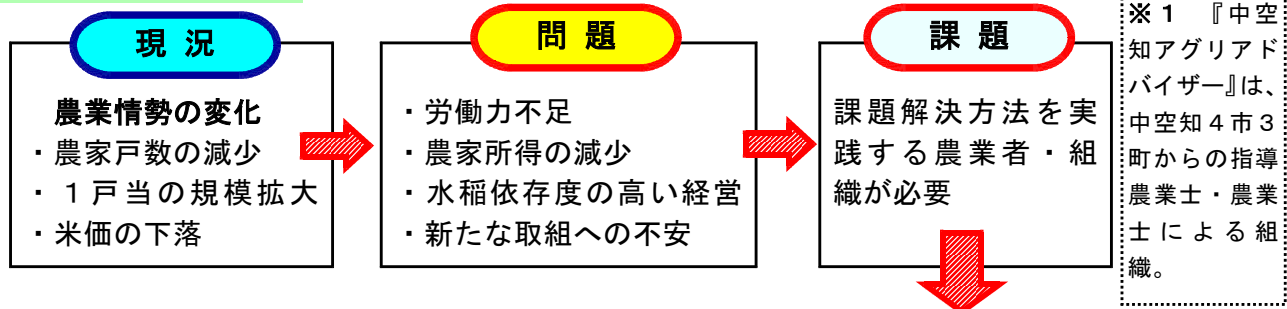
基盤整備後1年目・2年目の施肥対応
基盤整備後と復元田、慣行田との土壌窒素出現の違いを検証し、基盤整備後の水田施肥の目安を検討する。

アグリアドバイザーから地域への新たな提案

NO.4

対象：中空知アグリアドバイザー※1（82戸）

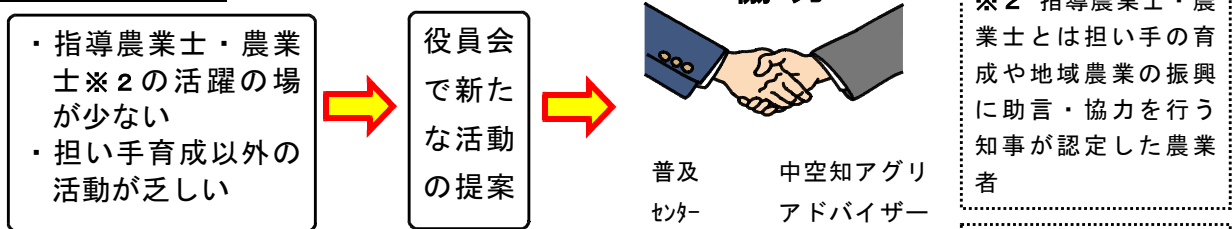
1 活動の背景



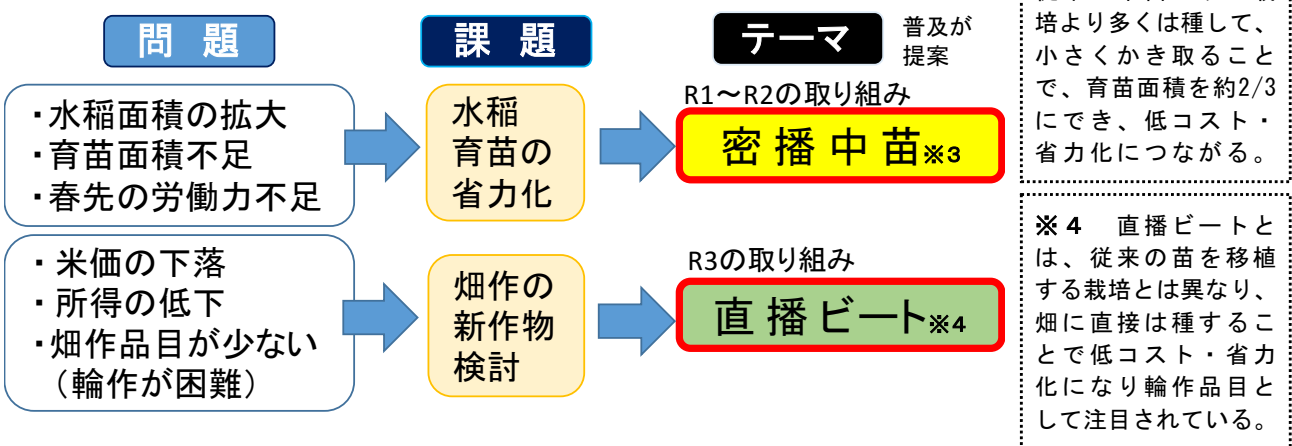
中空知アグリアドバイザーによる地域への新たな提案へ

2 活動の経過

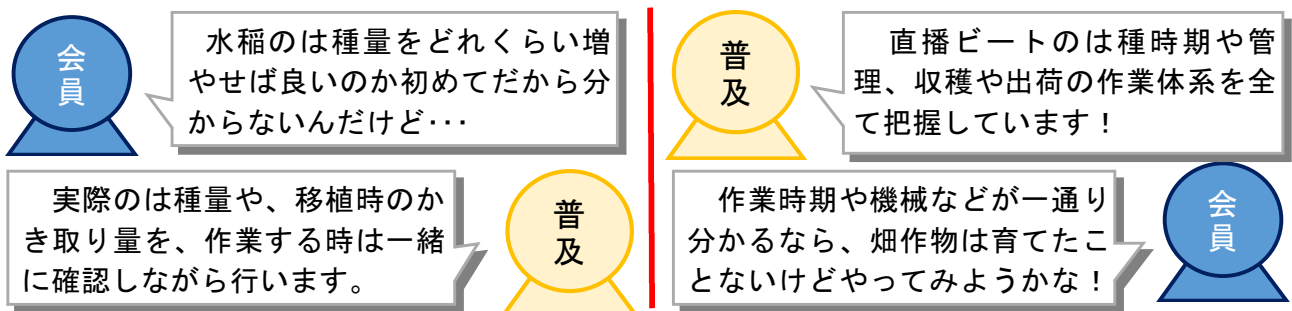
○取組のきっかけ



○R1～3までのテーマ設定までの流れ



○試験実践農家に寄り沿ったサポート体制





実証ほ設置の打合せ



研修会で会員も視察

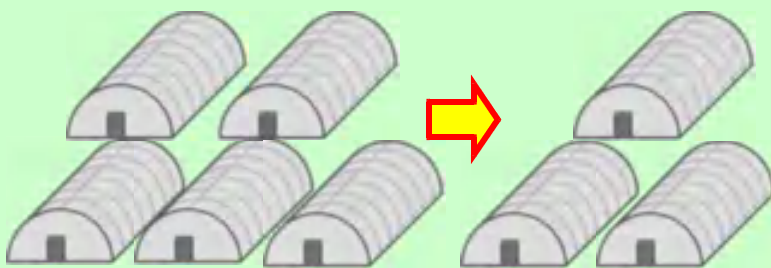
試験結果をリーフレット化



各地域の生産組織等へ周知

3 成果の具体的内容

① 密播中苗の導入による効果

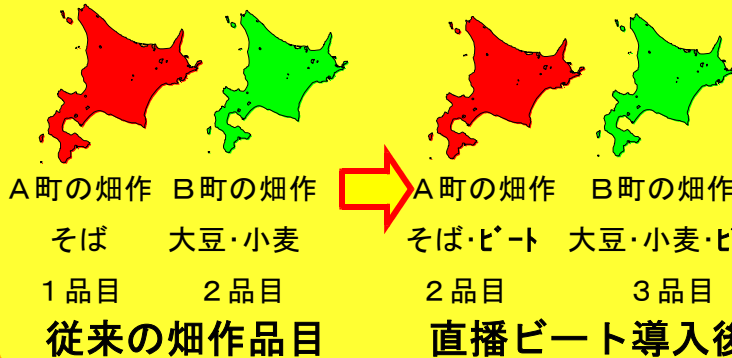


導入前(慣行育苗)

導入後(密播中苗)

- ・育苗ハウス面積
→ 慣行対比 約2/3!!
- ・余剰施設・労働の活用
→ 面積拡大
他作物への振分
- ・地域への波及性
→ R4年22戸導入見込み

② 直播ビート栽培の導入による効果



A町の畑作 B町の畑作
そば 大豆・小麦
1品目 2品目
従来の畑作物目

A町の畑作 B町の畑作
そば・ビート 大豆・小麦・ビート
2品目 3品目
直播ビート導入後

- ・畑作物目
→ 1品増え、輪作可
- ・所得の確保
→ リスク分散が可能!
- ・地域への波及性
→ R4年9戸導入見込み
(約17ha)

③ 中空知アグリアドバイザーの変化

- ・会員がより積極的に先駆的な取り組みを実施
- ・会員が各地域へ情報発信し、地域全体で取り組みが進んだ

地域の課題解決に取り組み、情報発信する組織に発展!!

4 今後の課題と対応

- ・密播中苗や直播ビート栽培の波及を促進。
- ・新規作物『子実用コーン』『しょうが』の栽培試験及び地域適応性を検討。
- ・情報発信の機会減少のため、発信手法の検討



担い手を核とした持続可能な経営体の育成

～ 共に協力して何事も成功しよう（担い手のスキルアップ編）～

NO.5

対象：沼田町共成地区（16戸）

1 活動の背景

現状	課題
水稲反収：559kg/10a (H30～R2平均) 町平均より30kg/10a多い 経営主の平均年齢：46歳 平均耕地面積：23.9ha（町平均並）	<ul style="list-style-type: none"> ・親が働けなくなったときの労働力不足対策 ・担い手のスキルアップ ・情報交換の場の創設

2 活動の経過

(1) 担い手のスキルアップ

ア 土壌診断の実施

- ・土壌診断結果に基づく施肥設計
- ・土づくり研修会(写真1)



写真1 土づくり研修会

イ 水稲育苗管理の見直し

- ・チェックシートによる見直し
- ・育苗研修会(写真2)、視察



写真2 育苗研修会



3 成果の具体的内容

(1) 担い手のスキルアップ

ア 土壌診断の実施

(ア) 施肥設計の実施

- ・16戸（20筆）が土壌診断を実施！
- ・リン酸過剰、ケイ酸の不足が見られた

若手5戸が施肥設計を実施した(写真3)

→目標達成！

(イ) 土づくりに対する意識の変化

- ・2戸（4筆）で土壌断面調査（7名参加）を実施（写真4）。水稲の生育が劣るほ場では、作土が浅く、作土層以下で排水不良となっていることが見られた。

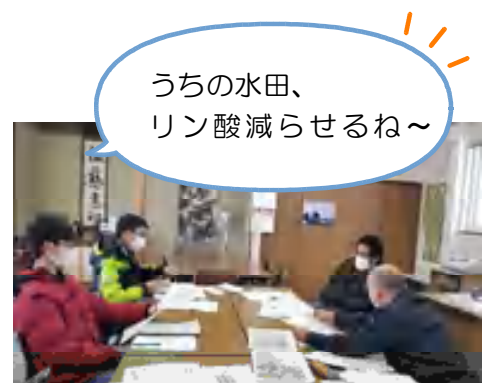


写真3 施肥設計

★農業者の声

- ・コスト低減には、ほ場に応じた施肥対応が必要だね。
- ・初めて自分のほ場の土壌断面を見たよ。
- ・水稻の生育が悪い要因は、下層の土質に問題があったんだね。
- ・有意義だったので、今後も開催して欲しい。



写真4 土壌断面調査

(ウ) 意見交換会の開催

- ・6月、8月、11月に若手農業者と意見交換会（写真5）を実施し土づくりや肥培管理の重要性など、自分たちの課題を検討することが出来た。
- ・「このような意見交換の場を増やしてほしい」との要望があがり、営農意欲が向上した！



写真5 若手農業者との意見交換

イ 水稻育苗管理の見直し

(ア) 水稻育苗管理チェックシートの活用による改善

16戸全戸が実施! →目標達成!

- ・16戸中7戸が改善した。
- ・特に「浸種・催芽」が改善された。

表1 育苗チェックシート集計
(一部抜粋)

項目	改善した人数
ハウス準備	3
浸種	7
催芽	7
資材	2

(イ) 苗質の向上

良い苗は収量が高い!

- ・次年度の育苗管理に対する意識が高まった。
- ・床土の酸度矯正を6戸が実施した。

(ウ) 育苗研修会による意識の変化

研修会に5戸（女性が中心7人）が参加！（写真6）

- ・実際に育苗管理をしている人ならではの質問が多かった。



写真6 育苗研修会（視察）

★農業者の声

- ・他の人のハウスを見る機会がなかったため、大変勉強になった。＼(^o^)/

4 今後の課題と対応

担い手のスキルアップ

- ア 土壌診断の実施
 - ・施肥方法や土づくりの情報共有
- イ 水稻育苗管理の見直し
 - ・育苗管理方法の改善
 - ・研修会の継続
- ウ 意見交換会の継続開催

みんなでスキルアップだ!

